

新しい 病害虫 Vol.11

本県は栽培される農作物の種類や作型が多様で、発生する病害虫の種類も大変多く、また、同時に野菜・花卉類、それらの種苗などの海外からの輸入や国内での移動が大幅に増加し、それに伴って新たな病害虫の侵入、発生が続いています。これらの新発生病害虫は既存の病害虫との見分け方が難しかったり、効果的な登録農薬がないなど防除に苦慮するケースが多く見られます。

このような、新たに発生した病害虫の防除対策に役立つよう、見分け方や防除法などについて紹介します。



カンザワハダニ（ニラ）



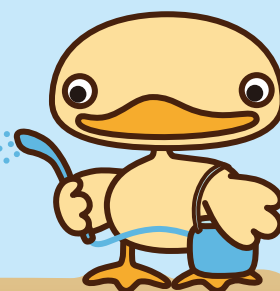
ヨツモンカメノコハムシ



アシビロヘリカメムシ



トルコギキョウ斑点病



高知県病害虫防除所

カンザワハダニ

Tetranychus kanzawai Kishida

平成28年度特殊報第1号

発生作物：ニラ

形態、生態など

雌の体長は0.53mm内外。体色は、夏型雌はくすんだ赤色で体側に不規則な暗色部を持ち、休眠雌は一様な朱色を呈する。雄の体長は0.45mm内外。体色は、淡赤色、黄赤色、無色などの変異があり、寄主植物によっても異なる（写真1）。

被害

葉が食害されることにより、かすれ状に退色し生育不良となる（写真2）。

防除対策

- (1) ほ場周辺の雑草はハダニの発生源となる可能性があるため、除草を徹底する。
- (2) 発生ほ場では、被害を拡大させないために、寄生葉を早期に除去し、ほ場外に持ち出して処分する。



写真1: 葉上のカンザワハダニ



写真2: 食害による葉のかすれ症状

ヨツモンカメノコハムシ

Lacoptera quadrimaculata (Thunberg)

平成28年度特殊報第2号

発生作物：カンショ

形態、生態など

成虫はやや扁平な楕円形で、体長7.5～9.0mm。体の中央部はやや艶のある茶褐色、周縁部は半透明で黄褐色で鞘翅の前方と後方の縁に黒褐色の大型斑紋がある（写真3）。幼虫は、扁平な紡錘形で、体の周囲にトゲ（樹枝）状突起を有し、背面に脱皮殻や糞を背負う（写真4）。本種はヒルガオ科の植物に寄生する。成虫、幼虫とも葉を食害し、4月～11月まで3～4回の発生を繰り返す。

被害

成虫、幼虫が葉を加害し、円形～不定形の穴の食害痕を残す（写真5）。食害が酷くなると葉が網目状になるため、生育への影響が発生する。カンショでは塊根部への食害はない。



写真3: 成虫



写真4: 幼虫



写真5: カンショ葉の食害痕

防除対策

- (1) ノアサガオやハマヒルガオなど、ヒルガオ科の雑草はヨツモンカメノコハムシの発生源となる可能性があるため除去する。
- (2) カンショにおける登録薬剤は、スミチオン乳剤（1,000倍、収穫7日前まで、5回以内）、コテツフロアブル（2,000～4,000倍、収穫前日まで、2回以内）、アクセルフロアブル（1,000～2,000倍、収穫前日まで、3回以内）である。

アシビロヘリカメムシ

Leptoglossus gonagra Fabricius

平成28年度特殊報第3号

発生作物：ニガウリ

形態、生態など

成虫は体長17～25mm。体は黒褐色で、下面には多数の橙色斑がある。前胸背は中央前方に三日月型をした橙色の帯があり、側角は鋭くとがる。後脚は長大で脛節が葉状に広がっている（写真6）。

幼虫は1～5齢を経過するが、4齢までは頭部、胸部が橙黄赤色、胸部、脚部などは黒褐色である（写真7）。

卵は長さ1.8mmの円筒形で光沢のある黄土色、寄主植物の茎、つる、葉柄に10～25個産み付けられる（写真8）。

被害

ウリ科植物、特にニガウリを好んで吸汁加害し、キュウリ、ヘチマ等も加害する。ウリ科の寄生植物が少ない場合、カンキツ類等を加害することがある。被害を受けた果実は、吸汁部や果実全体が硬化し食用に適さなくなる。

防除対策

- (1) ニガウリにおける登録薬剤は、トレボン乳剤（1,000倍、収穫前日まで、3回以内）、アディオン乳剤（2,000～3,000倍、収穫前日まで、3回以内）である。
- (2) 栽培終了後のニガウリ等のウリ科植物は、アシビロヘリカメムシの発生源となる可能性があるため除去する。
- (3) キュウリ等の施設栽培においては、防虫ネットによる成虫の侵入防止を図るとともに、発生を確認した際は早期防除に努める。

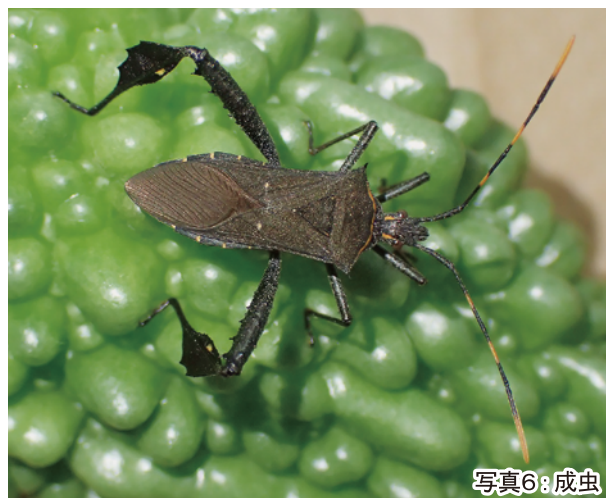


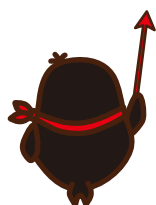
写真6: 成虫



写真7: ニガウリ果実への寄生状況



写真8: 卵塊（孵化後）



トルコギキョウ斑点病

トルコギキョウ斑点病菌 *Pseudocercospora eustomatis*

平成 29 年度特殊報第 1 号

発生作物：トルコギキョウ

伝染方法、 病徴など

葉に5～20mm程度のすす状の灰～黒褐色斑点が形成される（写真9、10）。病斑は下位葉から上位葉へと進展し、葉の表、裏両面に発生する。なお、本病は夏期の高温期を除き、春から秋にかけて多湿条件下で多発する。

防除対策

- (1) 多湿条件下で発生するので、換気や加温による除湿を十分に行う。
- (2) 病勢が進展すると防除が困難となるので、発生初期に発病部位を除去するなど、適切な防除を行う。
- (3) 罹病株の残渣は伝染源となるので、ほ場外に持ち出して適切に処分する。



写真9: 葉の症状

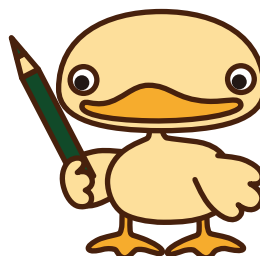


写真10: 葉の症状（拡大）



高知県病害虫防除所では、農作物の病害虫や防除対策、また農薬に関する最新情報を提供しています。

高知県病害虫防除所

〒783-0023 高知県南国市廿枝 1100
TEL:088-863-1132 FAX:088-863-7470

TEL:088-863-1132 / FAX:088-863-7470 / E-mail:160506@ken.pref.kochi.lg.jp
URL : <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

平成 31 年 3 月作成